

## 水とみどりのまちづくり

緑豊かな六甲の山々から湧き出る清冽な一滴は、溪を流れ滝を下り、いく筋もの川となって海に注ぎます。この水は「KOBE WATER」として船乗り達に愛され、また「宮水」として灘の銘酒を醸しています。

神戸の河川は大都市には珍しく水質に恵まれています。表六甲は山麓部まで家が建ち並び、西北神地域では大規模な宅地開発が進んでいます。

清らかで豊かな水を守っていくためには、単に緑を育てるだけでなく、私達の暮らしと融和したより積極的な水の保全対策を実施していかなくてはなりません。

### 水辺空間の整備

神戸市では、心のふれあいと、生きがいのある「水とみどりのまちづくり」をめざし、市域を流れる河川を都市のオアシス・貴重なオープンスペースとしてまちづくりに生かそうと考えています。整備に当たっては、それぞれの河川の特徴を生かし、調和のとれた事業を推進しています。

### 豊かな自然の保全と活用

西北神地域を流れる河川では、豊かな自然と調和した川づくりを進めていきます。また比較的広い河川敷などを利用し、市民が楽しめる場所を提供していきます。

#### ○伊川

<伊川の自然を生かした河川改修>

伊川は、六甲山系の西端にある「しあわせの村」付近を源とし、明石公園北側で明石川に合流する市内では比較的規模の大きな二級河川です。上・中流域は、のどかな田園地帯をゆるやかに流れ、一部、太山寺付近で急峻な渓谷となっており、河畔には緑が繁り、豊かな自然が残されています。



改修直後の伊川（谷田橋付近）



改修後10年経過し植生が回復している伊川

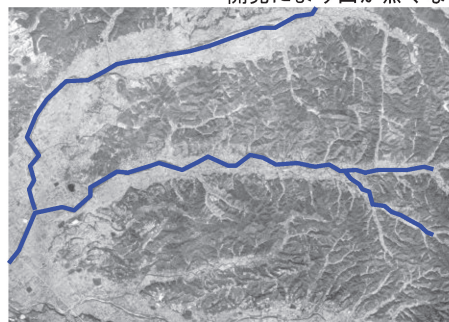
しかし周辺では、大規模な都市開発により、新しい街づくりが進められています。

このような状況のなか、河川改修と豊かな自然環境の保全を図るとともに、人々が憩い、集う「うるおいとふれあい」の水辺空間の整備を行っています。

#### ○櫛谷川

<櫛谷川周辺の大規模開発の状況（左：昭和35年、右：平成14年）>  
開発により山が無くなっているのが分かります。

櫛谷川は、西区櫛谷町寺谷を源とし、西区玉津町丸塚で明石川に合流する二級河川です。この川の流域では、西神ニュータウン等の大規模な開発が行われています。



開発以前の櫛谷川は、出水時にはたびたび河岸の崩壊や氾濫を起

こしていました。そのため、大規模な開発にあわせて暫定改修を行いました。その後、下流の明石川の改修が行われ、櫛谷川の更なる改修が可能となったため、河床を掘り下げる改修（二次改修）を進めています。



<櫛谷川二次改修>  
掘り下げた後の護岸は、自然石を用いるなど環境に配慮しています。

二次改修にあたっては、コンクリートを出るだけ使わない等、周辺の自然環境や親水性等に配慮した整備を行っています。

「ふれあいの場」として

表六甲の河川は、市街地を有機的に結ぶ緑の軸として整備を進めるとともに、水辺広場など親水性豊かなおいとふれあいの場を創出します。

○福田川

福田川は、神戸市須磨区白川台に端を発し、垂水区中央部を経て大阪湾に注ぐ二級河川です。

福田川沿いは、住宅等が建ち並んでいるため、旧河川敷など限られた空間を利用して親水広場を整備したり、河川管理用通路を遊歩道として整備するなど、地域の人々が気軽に水辺にふれあえるようにしています。また、河道内でも河床切り下げ工事にあたっては、少しでも親水性や自然の回復ができるような整備をしています。



＜親水広場（福田川すいすいパーク）＞



＜親水性を持たせた河道整備（清掃活動の状況）＞



＜（遊歩道）福田川プロムナード＞

○住吉川

住吉川は、六甲山最高峰付近に源を発し、大阪湾へと注ぐ二級河川です。流域の大半が山地であり、扇状地を流れる天井川であるため、生活排水の流入がなく市内随一の清らかさを誇る清流です。

神戸市では、かつて山を削り海を埋め立てて新たな土地を生み出してきました。住吉川では、この工事のためのダンプ用道路を河床内に設けました。埋め立て終了後の昭和49年に、この河床道路を「清流の道」として開放しています。



＜清流の道公園＞

○生田川

生田川は、六甲山系の摩耶山・石楠花山を源とし、神戸港に注ぐ二級河川です。明治初期の生田川は、現在のフラワーロードを流れており（P26 参照）、洪水のたびに港や外国人居留地などに被害をもたらしていました。その後、付け替え等の改修が行われ、今では神戸のシンボルリバーとして市民に親しまれています。

生田川公園ふれあい広場には、天津市との友好都市提携20周年を記念し、天津市から贈られた「百龍嬉水」（彫刻）と「連翼亭」（あずまや）が整備されています。



百龍嬉水



＜生田川公園ふれあい広場＞

○都賀川

都賀川は、上流の袖谷川と六甲川の合流点から本川となり、灘区の中心を流下し大阪湾に注ぐ二級河川です。

昭和20年代までは清流でしたが、30年代後半から家庭の雑排水等の流入により汚染が進み、一時は魚の住めない川になっていました。そこで、清流を呼び戻そうと住民が主体になった活発な河川愛護運動が広まり、今では鮎が遡上し蛸も生息できるようになっています。



＜都賀川整備状況（イベント：都賀川ウォーク）＞

# ～水とみどりのまちづくり～

## 水とみどりのネットワーク整備

阪神・淡路大震災によって、私たちは改めて「水」や「みどり」の大切さを知りました。河川や公園は延焼をくい止め、河川水は消火用水や生活用水として利用されました。

この震災での教訓をふまえ、神戸市では「水とみどり」が豊かで災害に強い、安全で安心なまちづくりをめざしています。

「水とみどりのネットワーク整備」は、日常は人々が憩い、自然や生きものにふれあえる空間として、また災害時には避難路や延焼遮断帯などの防災空間となるよう、「環境形成帯」などの整備や、市街地において「せせらぎ水路」整備や「緑化」を進めるものです。

環境形成帯は、河川や河川沿いの緑地、公園、道路を一体的に整備するもので、表六甲河川のうち主要な6河川（住吉川、石屋川、都賀川、生田川、新湊川、妙法寺川）を重点的に整備しています。河川としては、階段護岸、河川敷へのスロープ、渡り石、取水ピットなどを整備しています。



＜水とみどりのネットワークのイメージ＞

### ○妙法寺川

妙法寺川は、神戸市北区ひよどり台の山中に端を発し、大阪湾に注ぐ二級河川です。妙法寺川では河川沿いに桜並木が整備され、「桜の回廊」として市民に親しまれています。ここでは河川沿いにある公園から河道内に入れる階段を整備しています。



＜住吉川でのスロープや渡り石の設置状況＞  
災害時には、避難路や取水拠点として利用できます。



＜妙法寺川での階段の設置状況＞

## ＜せせらぎ水路の整備事例＞

### 東灘区住吉山田地区

古くから残る住吉川を水源とした水路を活かし、この地域の歴史文化的シンボルとして「水車」を整備しています。



### 東灘区御影郡家地区

うるおいある環境形成と防災にも役立つよう道路、公園と一体となった「せせらぎ水路」や公園を整備しています。



### 兵庫区東山地区

新湊川沿いの緑道の中に、鈴蘭台下水処理場の高度処理水を活用し、「せせらぎ水路」や「噴水」を整備しています。



## 川を美しく・楽しく

昭和40年代、人口が都市部へ集中し、不法投棄や生活排水の流入などにより、川は汚れ、生き物は死滅しました。

まさにその時、自分たちの川を愛し、清流を取り戻そうと人々が立ち上がりました。最初は、地域の自治会、婦人会、消防団などが集まり、川の美化活動を始めました。その後河川愛護活動を行う団体が発足してきました。

また、多自然河川工事の採用などにより、生物にやさしい河川環境が整えられ、親水性のある河川整備を実施し、地元の方々の河川愛護団体と共に、川の持つ自然的・文化的環境を守ろうと様々な活動や楽しい催しが行われています。

伊川クリーン作戦の様子



都賀川開きでの環境学習の様子



### <川のイベント情報>

「川開き」や「リバーフェスタ」など、夏休みの時期を中心に、楽しいイベントが開催されています。詳しくは、神戸市建設局河川課ホームページや広報紙KOBEなどをご覧ください。

### <URL>

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/river/kireini/01clean.html>

### <神戸での河川愛護活動小史>

- S 42 住吉川で、塾の生徒たちが清掃活動を実施。
- S 49 魚崎、住吉、本山地区が合同で住吉川の清掃活動を開始。灘区の河原自治会などが都賀川の清掃活動を開始。
- S 52 河川愛護要綱を制定。河川美化活動等を行う河川愛護団体に助成を開始。
- H 26 3月現在、河川愛護団体 54 団体が助成を受けて活動中。

樋谷川まつり



## ～災害に備えて～

## 水防活動

水防活動とは、水防法の規定に基づき、兵庫県知事から指定された指定水防管理団体である神戸市が、市内の河川、海岸、港湾及びため池の水災に対処し、その被害を軽減することを目的とした活動です。

具体的な活動としては、災害が発生することが予想される際の連絡体制の確立、洪水時に必要な土のう等資材の確保などがあります。また、災害が発生したことを想定し、市民や関係機関が参加して実施する防災訓練などを通して、いざという時の迅速な対応や、防災意識の向上を図っています。

防災訓練

